

油画専攻 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

油画専攻では、人間にとって原初的な表現であり様々な美術表現につながる絵画を起点として、高度な表現技術・技法を身につけた美術家の養成、独創的で普遍性を持った作品を創作する優れた作家の輩出を目標にしています。

■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・高度な表現技術・技法
- ・表現する上での自立心と探求心
- ・内面をより深く掘り下げた思考力と着想力

■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業制作の評価・・・教員全員（12名）の審査員が卒業制作作品を様々な視点（独自性、表現力など）から審査し、協議の上総合的に評価を決定します。

カリキュラム・ポリシー

■ 教育課程の編成方針

絵画を起点として基礎力をより確かなものとし、個性に応じて独創性、表現力を高めるよう、また少人数教育（チュートリアル授業・講座授業・講評週間など）での対話から多様な芸術的思考を学ぶことができるようカリキュラムを編成しています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

- ・1年次は「基本となる素地作り」の学年とし、風景画、人物画、絵画材料、壁画、版画、空間表現などを学びます。
- ・2年次は「可能性」の学年とし、学生は教員がそれぞれ開く講座を自主的に選択する講座授業を中心に学びます。
- ・3年次は「応用」の学年とし、チュートリアル授業（学生が教員を指名し個人指導を受けます。）と、それぞれの学生が自主的な研究制作を行います。

また文章講座、写真講座などで作品についての文章表現や作品撮影の基本についても学びます。

- ・4年次は「作品の成立」の学年とし、卒業制作作品を制作します。学年の始めにチュートリアル授業で指導を受け作品の構想を練り、夏休み前に本学芸術資料館で作品を公開展示します。後期には卒業制作に向けた講評会を定期的に行います。

■ 教育課程の評価方針・方法

- ・課題の指導は複数の教員があたり、評価も教員全員の協議により総合的に評価します。なお評価にあたっては、作品制作における積極性と探究心、完成作品の独自性と表現力を重視します。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法により評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・美術・絵画に強い関心と探究心をもっている人
- ・美術・絵画に関する基礎的表現力があり、大学においてさらに表現力を深めようと志す人
- ・芸術家として自己実現を目指す人

■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・基礎的な描写力（デッサン）
- ・絵画表現力（油画・水彩画）
- ・豊かな創造力と絵画表現を試みる力

■ 入学試験の基本的な方針・考え方

受験生が能力を最大限発揮できるよう試験問題、試験時間、制作作品のサイズなどを工夫した入学試験を実施します。

【一般入学試験】

- ・一次試験では、素描の実技試験の得点と、学科（大学入試センター試験）の合算により合否を判定します。
- ・二次試験では、油画または水彩画による実技試験の得点によって、最終合格判定を行います。モチーフは年度によって変更します。大学入試センター試験や一次試験の得点は加算されません。